

八地申
第9号
10月28日
提出!

安全で安心できる質の高い鉄道輸送サービスの 提供に向けた睡眠時間拡大の申し入れ

安全が最優先事項であるはずの鉄道業において、睡眠不足に起因した速度超過・大幅過走などの安全を脅かす事象がJR東日本だけでなく他の鉄道会社においても多発しており、鉄道業における睡眠のあり方が問われています。2020年2月18日に提出した八地申第2号「2020年3月ダイヤ改正等」についての申し入れの団体交渉において、睡眠を目的とした乗務の中断に関する議論を行なった際に、**睡眠を目的とした乗務の中断に関する議論を行なった際に、運転士の着発6時間の中で取ることができる睡眠時間(実睡眠時間)は「4時間30分程度である」という会社の認識が示されました。**

それを受けて**睡眠実態調査を実施した結果、平常時においても会社の「4時間30分程度」という認識を大きく下回る実睡眠時間になっている行路が複数あることが分かり、会社認識と現場実態に大きく乖離があることが明らかになりました。**

さらに、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染防止対策として体の免疫力を高めるために「十分な睡眠をとること」が求められています。また、会社が策定した健康経営中期ビジョン2023では、「社員一人ひとりが心身ともに健やかに生活するとともに、その意欲や能力を最大限に発揮すること」が目指されていますが、実際は日本人の5人に1人が睡眠に不安を抱えており、長期にわたる睡眠不足は健康に重大な影響を及ぼす可能性があるとして、睡眠時間の拡大は急務であると考えます。

安全・安定輸送を支える乗務員をはじめとする鉄道従事者に対する健康確保の観点から申し入れを行いました。

1. 今後実施されるダイヤ改正において、睡眠を目的とした乗務の中断を「安全で安心できる質の高い鉄道輸送サービスの提供」のために拡大すること。

働きやすい職場環境を私たちの手で実現させよう!



Hachioji MAIL NEWS

JR 東日本輸送サービス労働組合 八王子地本
JR EAST TRANSPORT SERVICE WORKERS UNION - HACHIOJI



ホームページ

2020.11.18
No. 062



Twitter

八地申
第9号

**安全で安心できる質の高い鉄道輸送サービスの
提供に向けた睡眠時間拡大の申し入れ**

11月18日
交渉開催!

八地申第2号「2020年3月ダイヤ改正等」についての申し入れの団体交渉において、**会社は「着発6時間の中で4時間30分は寝られている」との認識**を示しました。

そこで「睡眠実態調査」を実施した結果、**4時間30分以下の睡眠時間になっている行路が多数あること明らかになりました!**この結果を基に、睡眠時間の拡大を会社に訴えてきました。

主な議論

組合

4時間30分も寝られていない!

- ・コロナ対策の「窓閉め」「シーツ交換」などが睡眠時間の阻害要因になっている!
- ・一般線区は、そもそも着発6時間を下回っている!

対立!

会社

「乗務員勤務制度に則っている」を繰り返す!

4時間30分の根拠 ・着発6時間(入区30分・出区60分)
なので、4時間30分寝られている と主張!

組合 ダイ改以降

- ・乗泊から本区へ移動しなければならぬなどの問題があることから、持ち替えなどを通じて改善する必要がある!

シーツ交換

- ・業務ではないのなら、元の取り扱いに戻すべきだ!
それが出来ないなら、業務と認めるべきだ!

窓閉め

- ・誰がやるべきものなのか?

(明確な回答が出ず)

↓
後日、回答をする

会社

睡眠時間拡大のために
検討をしていく

確認!

八王子だけの問題ではないので、
関係箇所へ話をしていく

確認!

確認!

**「職場現実・実態に合わせ、移動労働という特殊性を考慮すべき」と主張し、
次期ダイヤ改正において終電繰り上げが予定される中、
睡眠時間の拡大を検討することを**確認!****

安全・働きやすい職場環境を私たちの手で創り出そう!!